

学校教育目標 <やさしく かしこく たくましく>

櫻の子



5月号 (令和4年5月2日)

児童数 551名

川越市立大東東小学校

主体的・対話的で深い学びの実現を目指して

新緑の季節、5月を迎えました。芽吹く青葉のように子どもたちもすくすく成長しております。先日は、保護者会にご参加いただき、ありがとうございました。日頃より学校へのご理解・ご協力をいただいていることに深く感謝しております。

さて、令和2年度より新学習指導要領に基づく教育が始まり、今年で3年目となります。新学習指導要領では、獲得を目指す力について次の3点を挙げています。

- ① 生きて働く「知識・技能の習得」
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」

これらの能力を培うために、必要な学習の形態として「アクティブ・ラーニング」（授業を受け身的な学習から能動的な学習）へ転換しています。前学習指導要領より、各教科の指導内容を見直し、「アクティブ・ラーニング」につながる主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことになりました。「対話的な学び」とは、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先人の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ、深めることです。「深い学び」とは、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習のことです。

本校としても、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、研鑽を積んでいるところです。本年度は、算数専科が学校に配置され、3年生以上は少人数指導を進めています。学校研究も新たに算数科としました。研究のテーマを<「大好き！楽しい！」算数科を通して生き生きと学ぶ児童の育成～主体的・対話的で深い学びのある算数指導を目指して～>とし、授業実践を積んでいきます。また、高学年では、教科担任制に取り組むなど、アクティブ・ラーニングだけでなく、基礎学力の定着にも力を注いでまいります。学習は日々の積み重ねが重要となり、家庭での学習により定着が更に確実なものとなります。学校と連携しながら、家庭での学習にもご協力いただきますようお願いいたします。

「できた！」という達成感をたくさん味わえるよう教職員一同、教育に力を注いでまいります。

